

# 経営資源をSCの環境保全活動に

環境保全のコストと効果を定量的に把握するために、2002年度より環境会計を導入しています。コスト集計を行い、より効率的な環境経営を進めていきます。

## ● 2003年度の環境保全コストとその効果

環境取組みとその効果	単位：千円			参照ページ
	2003年度(16SC)	2002年度対比	2002年度(14SC)	
<b>新SCでの投資、及び新たな取組み</b>	<b>588,807</b>	<b>539.4%</b>	<b>109,160</b>	
新SCでの新たな調査(調査費用発生と開店年度のズレによる差異が発生しました。2005年からは新店開店時に一括計上していきます。)	27,300	81.7%	33,400	笑顔の街づくりレポート
環境配慮資材を建設資材として積極的に導入し2002年度対比1435%と飛躍しました。リサイクル素材として336.4トン使用し、資源の保全と廃棄物の削減となりました。	297,886	1434.9%	20,760	
ペットボトルのリサイクル(エコ・タペストリー・リサイクルコンに利用:約0.58トン、12,442本(500ml換算))	8,687	263.2%	3,300	下記右写真
間伐材などの木材のリサイクル(エコステーションベンチ・外装材などに利用:約1.82トン)	5,610	1219.7%	460	下記左写真
その他のリサイクル(廃タイヤ・アルミ缶・溶融スラッグ・CDをリサイクル:約332.5トン)	31,844	187.3%	17,000	
ワックス不要タイルの利用による剥離剤(産業廃棄物・廃アルカリ液)の削減(剥離剤1,479リットル)と、使用後のリサイクル	251,744	新規取り組み		
健康増進法に対応し、柏・富津・岡崎・高知・盛岡・太田SCで分煙のため喫煙室を設置しました。	44,292	新規取り組み		
ソフト面での省エネ・省資源からハード面の実験を開始し、省エネインバーターを岡崎・倉敷SCに導入し、水資源節減のため節水機器を富津・倉敷・太田SCに導入しました。	8,922	新規取り組み		
省エネインバーターの試験導入	5,751	新規取り組み		環境レポート17ページ(イオン倉敷SC編)
節水機器の導入	3,171	新規取り組み		環境レポート10ページ
イオンで推進している「ふるさとの森づくり」植樹祭を実施し81,077本を植樹しました。2002年は、44,726本でした。	210,407	382.6%	55,000	環境レポート4ページ
<b>全社にかかる費用、既存SCにかかる投資及び費用</b>	<b>884,374</b>	<b>116.4%</b>	<b>760,036</b>	
イオン1%クラブ拠出金(税引前利益の1%を拠出しています。但し、1%クラブの事業年度が当社と異なるため、実績ベースの拠出額を計上しています)	48,016	131.3%	36,578	笑顔の街づくりレポート24ページ
環境管理、及び環境教育。環境内部監査員は既に96名の育成済で全ISO推進責任者・担当者は受講済です。今後は従業員教育のカリキュラムに組み入れ育成していく予定です。またテナント従業員さまへの分別教育を中心に資材等を投入しました。	14,888	119.7%	12,434	環境レポート5-6ページ、10ページ、13ページ
古紙のリサイクル製品の購入(トイレットペーパー類・OA用紙:約221トン)	50,219	133.3%	37,673	
SCの植栽のメンテナンスや調整池の設置等の費用です。	127,577	107.5%	118,633	環境レポート4ページ、21ページ(イオン太田SC編)下記中央写真
SC施設メンテナンス。下水道管理の徹底のため、毎月の水質検査実施と水質保全用品の整備を行いました。また常用発電機の売却によりメンテナンス費用が減少しました。	311,551	114.4%	272,330	
常用発電機、ボイラー、冷水水発生機の保守点検など大気汚染防止法への対応	242,421	107.8%	224,800	環境レポート9ページ
下水道への排水設備メンテナンスの強化と水質検査の徹底をしました。	65,903	145.1%	45,405	環境レポート10ページ、19-20ページ
省エネ法該当SCが増加しエネルギー管理員・電気主任技術者への手当が発生しました。	3,227	151.8%	2,125	環境レポート13ページ
SCでの廃棄物処理とリサイクル リサイクル率61.3%(昨年度リサイクル率60.3%、2002年度対比1%向上)	329,482	116.7%	282,388	環境レポート7-8ページ
廃棄物の適正処理(一般廃棄物、産業廃棄物、及びそのリサイクル)	275,702	114.3%	241,245	
生ごみ処理機の設備メンテナンスです。年間約2,186トンを生ごみ処理機でリサイクルしています。	23,151	129.7%	41,143	環境レポート17ページ(イオン成田SC編)
廃棄物保管庫のメンテナンス費用。分別や計量システムの指導を行っています。	30,232			環境レポート20ページ(イオン大和SC編)
本社OA用紙の溶融処理	432	未集計		
本社での文具のリユース(ファイル類の再利用)	▲34	新規取り組み		
SCでの事故緊急事態の予防・対応 油漏出事故を想定し、訓練の実施や、予防備品を整備しました。	2,641	未集計		環境レポート3-4ページ
油漏出の事故や緊急事態に対応する器具や備品の購入を集計しました。	2,465	未集計		環境レポート16ページ(イオン三光SC編)
生ごみ処理機爆発事故に対応し防災センター内に警報機を設置し安全対策を講じました。	176	新規取り組み		環境レポート12ページ
<b>合計</b>	<b>1,473,182</b>	<b>169.5%</b>	<b>869,196</b>	

- 算出方法：「環境会計ガイドライン(2002年版)」・「環境会計ガイドブック 2002年版」(どちらも環境省)に準拠。
- 期 間：2003年2月21日～2004年2月20日 ●範 囲：イオンモール(株) ISO14001適用範囲とします。
- 計上基準：①複合コスト…環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。  
②人件費…イオンモール従業員の人件費は計上していません。但し、「SC施設メンテナンス」、「SCでの廃棄物処理とリサイクル」には外部人件費を計上しています。  
③投資…期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額を計上しリース契約の場合は、費用に計上しています。 ④減価償却費…減価償却費は計上していません。
- 注意事項：効果は、物量効果で表現しています。パフォーマンス等の詳細については、環境レポートの各項目に記載してあります。  
「イオン1%拠出金」は、2002年度の社会・環境報告書では算出していませんでしたが、2003年度追加計上しました。  
「SC施設メンテナンス 常用発電機、ボイラー、冷水水発生機の保守点検などの大気汚染防止法への対応」は2002年度数値を修正しました。



買物の途中に間伐材を利用したエコベンチでちょっと一息



SC内に緑の潤いをもたらせている植栽



ペットボトルをリサイクルしたエコタペストリー

# イオン大和ショッピングセンターにおける事故について

2003年のイオン大和SCの事故は、大変申し訳ない結果となってしまいました。しかし、この事故によって環境問題が後退してしまうことのないよう、反省と改善を重ね、「安全に絶対はない」ということを肝に銘じて取り組んでいきたいと思えます。

2003年11月5日早朝、イオン大和ショッピングセンター（神奈川県大和市）の生ごみ処理施設で爆発事故が発生しました。核店舗であるジャスコ大和鶴間店に設置されていた生ごみ処理機から原因不明の煙が発生し、消火活動をはじめた約10分後に爆発が起きたものです。消防士や警察官計11名が負傷（うち3名が入院）、建物も一部損壊しました。

近隣住民の方々をはじめ、お客さまや関係諸官庁等にも多大なご迷惑・ご心配をおかけしたこの事故は、2004年3月末日現在も警察・消防等により原因を調査中ですが、イオングループでも事故直後からその原因に対して、安全工学協会に依頼し、自主的に調査を進めています。

また他店に既設の生ごみ処理機については、各店の運用手順をはじめとするさまざまな情報を本社で集約し、さらにイオン(株)本社で再確認するなど、事故を絶対に繰り返さない、徹底した体制づくりを進めています。イオングループでの食品廃棄物のリサイクルは、社会的に重要な課題と認識し、これからも「食品リサイクル法」で定められた登録再生利用事業者などとの連携によるリサイクルの推進や、自社での生ごみ堆肥化など、最適な方策を選択し課題解決に取り組んでいきます。被害者の方々と関係各位、お客さまと社会に再々お詫び申し上げるとともに、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。



イオン大和SC全景

## 生ごみ処理施設爆発

### 大和のガス充満か、11人けが

5日午前5時10分ごろ、神奈川県大和市下鶴間一丁目、「やまとオークシティ、イオン大和ショッピングセンター」ジャスコ大和鶴間店「南側の建物内にある生ごみ処理施設で爆発があった。吹き飛んだコンクリート片や爆発による熱などで消防活動に入っていた同市の消防隊員や大和署員ら合わせて11人が顔や足などにけがをした。うち消防士1人は胸の骨が折れるなどで重傷。（15面に関係記事）大和署では、生ごみ処理施設内にガスが充満し、何らかの原因で引火したのではないかとみて調べている。イオン本社広報によると、生ごみ処理施設は一年11月の同センター開店時に導入した。野菜くずなどを発酵させ、肥料に変える仕組み。処理機は高さ約2.7m、幅約2.8m、奥行き約8.7mで、4日に通常点検した際には異常はなかったという。現場は、市役所と道路を隔てた北隣で、住宅街も近い。

2003年11月5日 朝日新聞 夕刊